

日刊 動労千葉

81.12.29
No.933

国鉄千葉動力車労働組合
千葉市要町二一八(動力車会館)
(鉄電)二九三五・六(公衆)四三二二・七二〇七

一年間をふり返って 各支部長に 聞く

81・3闘争は全国の労働者に
勇気と自信を与えた

勝浦支部 窪田 亮
執行委員長

この一年間は、まさに動労千葉にとって、最大の試練の年であった。中でも81・3闘争は、組織の飛躍をかけ総決起する三里塚春闘として位置づけ、自前の労働運動路線に基づき闘いぬいた教訓は大きく、混迷・停滞・右傾化する既成労働運動のもとで呻吟する労働者に勇気と自信を与えたと言えます。

一方、三五万人体制合理化を根幹とする攻撃も一段とき

ローカル線廃止等、われわれの職場を直撃する攻撃は、動労本部「革マル」反動分子をまるがかえにした動労千葉組織破壊攻撃として、81・3闘争に対する不当処分、6・12津田沼デッチあげ事件等なりふりかまわぬ攻撃として浮きぼりにされました。とりわけ木原線廃止反対の闘いは、該当支部として(一)名に近い要員の削減であり、地域住民に対する差別的福祉の切り捨てでもあり絶対に認めるわけにはいかないという

房総半島に輝かしい勝利の火が赤々と燃えあがる

蘇我支部執行委員長 占川 昇

まさしく激動の一年であった。なによりも三里塚ジェット闘争は動労千葉(一)(二)組合員の総力をあげた闘いであった。前段において全線にわたる抗議闘争に突入し、三月期限延長拒否の固い決意を内外に鮮明に示しました。そして助役機関士線見阻止闘争を連日にわたる早朝動員をもって展開し、第五回臨時大会で決定した三月決戦闘争の方針に従い三月一日動労千葉のスト前夜総決起集会には支部として最大限動員で結集、支部も籠城体制に入り三月二日始発時から指名ストに突入、二

日からは始まり六日は管内の旅各列車、首都圏国電の大巾な運休二四時間全面ストを貫徹しました。動労千葉の命運をかけた闘争であり、強固な組織力・闘争力が倍増され、房総半島の一角に激闘の輝かしい勝利の火が赤々と燃えあがりました。この勝利の火を全国の労働者・人民に拡大したことは「動労千葉ジェット燃料輸送阻止闘争支援基金」が反対同盟と支援共闘会議を中心に設立され、六月二十九日には、動労千葉十一番目の支部として銚子支部が結成され、第6回動労千葉定期大会にふまえ「80年代に通用する自前結の労働運動」を基本に「全員団が活動家になろう」を相言葉に、全員が団結して前進した81年でありました。

三里塚・ジェット闘争貫徹ノ「国鉄35万人体制」粉碎ノ

激化する攻撃に抗し、三里塚から反響！



81・3決戦勝利の地平が、力強く全国に拡大していった(1981年) 写真で見る動労千葉1981年5

右翼労働戦線統一「粉砕」三里塚二期着工阻止 12・3 労働者集会



35万人体制攻撃の全面化と対決 出で、労働戦線「粉砕」へ

動労大改革の実現が 戦闘的労働運動発展の道

千葉運転区支部執行委員長 永田 雅章

われわれ千葉支部は、81・3闘争で得た多くの教訓と成果を職場闘争に生かすきり、80年代を真に闘える組合としての自信と確信を深めた一年間でした。又、動労「本部」革マルの反革命性を満天下に明らかにした年でもありました。

- ・ 81・3闘争に対するスト破り、保護願
- ・ 三里塚闘争への敵対
- ・ 6・12デッチ上げ、告訴、警察労働運動化
- ・ 三五万人体制合理化に対する当局の尖

兵ニ親衛隊

・ 合理化に反対する者へのテロ
・ 労働戦線「統一」に対しては、楨枝―富塚執行部の親衛隊、反対する者へのテロ等々

われわれは、敵対・闘争破壊を断じて許さず、労働運動の真の戦闘的發展に向け、動労「本部」革マルを国鉄労働運動の中から一刻も早く一掃し動労大改革を実現しなければならぬ。

われわれ千葉支部は、11月27日第4回定期大会の圧倒的成功をもって、いかなる攻撃にも対応できる組織体制を確立し、来春、三里塚二期着工阻止を頂点とする闘いの最先頭で闘い抜く決意を打ち固めました。

全組合員・家族の強固な団結を粉砕せよ